

カナリア自治州事情

平成 23 年 1 月 現在

1 . 概観

(1) 沿革

カナリア諸島の起源については種々説がある。ロマンティックなものとしては海中に没した幻のアトランティス大陸の一部とする説があるが、今日、最も信頼されている説は、大西洋の膨脹に伴う海底の亀裂を原因とする多発火山により成立したというものである。最初の噴火は第三紀層の頃と推定されており、最近では1971年に起きたラパルマ島のテネギア山の噴火がある。

テネリフェ島にあるテイデ山は、スペインの最高峰(3,718メートル)であると同時に活火山でもあり、現在も軽微な活動が続いている。

カナリア諸島はローマ時代から存在が知られており、“カナリア”という名の由来は、ローマ人が初めてこの地に上陸した時、犬が多く生息しているのを見て、“INSULA CANUM”(ラテン語で「犬の島」の意)と呼んだことに因むと言われている。小鳥のカナリアの名前はこの島原産の小鳥フィンチに島名の「カナリア」をつけたもので、観賞用に改良されたものである。

もともとカナリア諸島にはグワンチェ(GUANCHE)と呼ばれる原住民が住んでおり、海岸近くの洞窟を住処とし、主に農牧及び漁労により生計を営み、社会組織はかなり進んでいたようである。ただし、金属の使用については知らなかったとされている。

ヨーロッパからの侵攻は、1402年のノルマンディーの貴族ベタンクールにより本格的に始まり、ポルトガル、次いでスペインによる攻撃が繰り返し行われた。1479年にアルカソバス条約により、ポルトガル・スペイン間で基本的な支配の枠組みが定まったことにより、スペインによる攻撃が本格化した。原住民はその都度勇敢に抵抗したため、1483年にグランカナリア島が、1496年にテネリフェ島がスペインの支配下におかれるまで実に90余年の歳月を要した。

この間、1492年にはコロンブスがアメリカ大陸への大航海の途次、ラゴメラ島に寄港し補給を行っている他、グランカナリア島では船の修理も行っており、カナリア諸島が彼の偉業の拠点となったことが、歴史的事実として記録されている。

カナリア諸島は、ヨーロッパからアメリカ大陸及びアフリカ大陸への海上交通の要路に当たるため、その後も数多くの侵略攻撃を受けている。最も著名なものは、テネリフェ島へのイギリスによる3大攻撃(1657年のブラック、1706年のヘミング、1797年のネルソンによるもの)で、現在テネリフェ市の紋章に3つの豹の頭として象徴されている。しかしながら、外国艦隊の攻撃はその都度撃退され、1797年のネルソンの攻撃を最後に平穏となった。

スペインは、1852年にサンタクルス・デ・テネリフェ(テネリフェ島)をカナリア諸島の首都とし、自由貿易港制度を発足させ、カナリア経済の基盤がここに整えられた。

その後、1927年には行政単位としてラスパルマス県とサンタクルス・デ・テネリフェ県に二分、1982年に両県は憲法の規定に従い、スペイン本土の他の地方と並んでカナリア自治州として発足し、従来中央政府の所管であった権限の幾つかが移管された。

1986年のスペインのEC加盟の際にも、カナリア諸島は、本土と異なる特別の地位(自由貿易港の存続、付加価値税の非導入、EC共同農業政策の非適用等)を認められた。

1992年にはカナリア自治州としてEC(現EU)に完全加盟、現在は農業・漁業政策、経済貿易等の各方面においてEUの枠組みの中で活動している。

(2) 地形・気候

カナリア諸島は火山性の地形を有しており、面積が小さいにもかかわらず中央部は高い山岳地帯を形成している。特にテネリフェ島にはスペインの最高峰であるテイデ山(3,718メートル)が雄姿を見せており、また、グランカナリア島には2,000メートル級のテヘダ山(1,949メートル)がある。

気候は基本的に地中海性気候に属しているが、アフリカ大陸、特にサハラ砂漠に近いこと、北西貿易風圏縁にあること、高い山があることなどにより各島及び海拔毎に特色のあるものとなっている。

一般に気候は温暖で、気温の年較差が少なく(年間平均気温約21度)、また降水量も極めて少ない。各島はアフリカ大陸に近い島ほど乾燥し緑が少なくなる傾向にあり、年に数回、サハラ砂漠からシロコ(SIROCO)と呼ばれる熱風が襲来する間は高温になるとともに空は砂の微粒子のためどんよりと霞んでしまう。

(3) 地誌(面積・人口・主要都市)

カナリア諸島は、アフリカ西岸サハラ沖(北緯27度37分～29度24分(わが国の奄美大島とほぼ同緯度)、西経13度20分～18度10分)に東西に浮ぶ7つの島からなり、スペイン本土まで約1,100キロ、アフリカ大陸まで約115キロの距離にある。

これら7つの島は、東側3島(グランカナリア島、フェルテVENTOURA島、ランサローテ島)からなるラスパルマス県と西側4島(テネリフェ島、ラパルマ島、ラゴメラ島、エルイエロ島)からなるサンタクルス・デ・テネリフェ県に分かれており、両県でカナリア自治州を構成している。

面積及び人口は次表のとおりで、7島の合計面積は約7,447平方キロメートルでほぼ宮城県と同程度である。ラスパルマス県の県都はラスパルマス・デ・グランカナリア市(グランカナリア島)に、サンタクルス・デ・テネリフェ県の県都はサンタクルス・デ・テネリフェ市(テネリフェ島)にあり、それぞれ県の中心都市となっている。

島名		面積km ²	人口(2010年)
カナリア自治州		7,447	211万8,519
内 訳	グランカナリア	1,560	84万5,676
	フェルテVENTOURA	1,660	10万3,492
	ランサローテ	846	14万1,437
	テネリフェ	2,034	90万6,854
	ラパルマ	708	8万7,324
	ラゴメラ	370	2万2,776
	エルイエロ	269	1万 960

出所:INSTITUTO NACIONAL DE ESTADISTICA(国家統計局)

2. 政治

(1) 国会(CORTES)

(イ) 上院(SENADO)

カナリア7島の各島より、以下の配分にて計11名選出され、カナリア自治州議会が任命する3名の議員と合わせ計14名の議員枠がある。2008年3月のスペイン総選挙により現在の島別・党別議席数は次のとおり。(任期は2008年～2012年)

島名	人数	内訳
グランカナリア島	3	社会労働者党(PSOE)2、民衆党(PP)
ランサローテ島	1	1
フェルテVENTOURA島	1	PSOE
テネリフェ島	3	PP
ラパルマ島	1	PSOE 2、PP 1
ラゴメラ島	1	PSOE
エルイエロ島	1	PSOE
自治州議会任命	3	カナリア連合(CC) PSOE 1、PP 1、CC 1
計	14名	PSOE 8、PP 4、CC 2

(ロ) 下院(CONGRESO)

県別に議席枠が決められており、ラスパルマス県8議席、サンタクルス・デ・テネリフェ県7議席の計15席が現在選出されている。2008年3月のスペイン総選挙の結果、現在の政党別議席は次のとおり。(任期は2008年～2012年)

県別	ラスパルマス県	サンタクルス・デ・テネリフェ県	計
党別	CC 0	CC 2	2
	PP 4	PP 2	6
	PSOE 4	PSOE 3	7
計	8名	7名	15名

(2) 自治州政府 (GOBIERNO AUTONOMO)

カナリア自治州政府の首相は、自治州議会(PARLAMENTO)の議員(DIPUTADO)から選出される(任期は4年)。自治州議員は、カナリア全7島より島毎の枠で60名選出される。

カナリア政界の主要政治勢力はCC、PP、PSC(カナリア社会党)の三党となっている。

1995年の統一地方選挙以来、主にCCとPPが連立政権又は一種の閣外協力関係が続き、再び2007年の地方選挙後、CCとPPの連立政権が発足したが、2010年10月にカナリア自治州政府がサパテロ政権(PSOE)と国会に於ける政策協定を結んだ事にPPが反発、自治州連立政権から離脱した為、現在はCCの単独政権となっており、野党PSC、PPの議席数が与党のそれを上回る所謂“ねじれ議会”となっている。

現在の自治州政府首相は、CCの党首パウリノ・リベロ・バウテ(PAULINO RIVERO BAUTE)である。副首相はマリア・デル・マール・フリオ・レイジェス(MARIADEL MAR JULIOS REYES)で、雇用・産業・商業長官を兼任している。

現在の各党の議席は次のとおり。

カナリア自治州議会勢力分布(DIPUTADOS定員60)		
(任期2007年7月～2011年5月)		
	政党名	人数
与党	カナリア連合(CC)	19
野党	カナリア社会党(PSC)	26
	民衆党(PP)	15

カナリア自治州議会はサンタクルス・デ・テネリフェ市に置かれているが、自治州の首相府(PRESIDENCIA)は、4年の任期毎にサンタクルス・デ・テネリフェ市とラスパルマス・デ・グランカナリア市に交互に設置され、2007年から2011年はラスパルマス・デ・グランカナリア市に置かれている。

(3) 島庁(CABILDO)

各島(7島)には、それぞれ島庁が置かれ、議員(CONSEJERO)は、島民の普通選挙によって選出され(任期4年)、その議員数は、島の人口に応じ変動する。

グランカナリア島では、2007年5月の選挙で、与党はPPからPSCに替わった。

(4) 市(AYUNTAMIENTO)

各島は市(AYUNTAMIENTO)に区分される。7島で88市に上る。市議会議員(CONCEJAL)は市民の普通選挙によって選出され(任期4年)、その議員数は、市の人口に応じ変動する。ラスパルマス・デ・グランカナリア市は、2007年5月の選挙で、与党はPPからPSCに替わった。

注1. 島庁及び市とも予算は、カナリア自治州より配分される。

注2. 島庁及び市の議員の選挙は、自治州と同時期に統一地方選挙(州、島、市とも比例代表制)として実施される。

注3. 州首相(知事)、島庁長、市長は与党名簿の第1順位者となる。連立の場合は、協議による。

(5) 中央政府代表部(DELEGACION DEL GOBIERNO)

地方自治体とは別に、スペイン国内の各自治州には中央政府が任命する中央政府代表部(DELEGACION DEL GOBIERNO)が置かれている。カナリア自治州においては、中央政府代表部がラスパルマス・デ・グランカナリア市にあり、その下に中央政府副代表部(SUBDELEGACION DEL GOBIERNO)がラスパルマス・デ・グランカナリア市(ラスパルマス県)及びサンタクルス・デ・テネリフェ市(サンタクルス・デ・テネリフェ県)にそれぞれ置かれている。

また、グランカナリア島及びテネリフェ島以外の5島には、それぞれ中央政府担当部(DIRECCION INSULAR DE LA ADMINISTRACION GENERAL DEL ESTADO)が置かれている。

3. 経済

(1) 概況

カナリア諸島の産業は、観光・港湾サービスの第三次産業が主たるものであり、域内の総生産の約7割強、就労人口全体の8割強を占めるなど、従来より観光を中心とした第三次産業を主体とする経済構造となっている。

第一次産業の中で、農業については、主要輸出産物であるトマト及びバナナがそれぞれモロッコ、中南米との競争に曝されて停滞気味である。漁業についてもEU-モロッコ漁業協定の交渉の決裂(2001年3月)により停船又は廃船を余儀なくされているなど、現在も操業に対して大きな打撃を受けている。

一方、観光を中心とした第三次産業は、これまでの著しい観光客数の増大を背景に、カナリア経済の牽引車の役割を果たしている。

(2) 指標

主な経済指標は次の通り。

①GDP	(2009年暫定)	412億5,842万ユーロ	[スペイン全体の3.9%]
②GDP成長率	(2009年暫定)	-4.2%	[スペイン全体 -3.7%]
③労働者数	(2009年第4四半期)	109万2,000人	[スペイン全体の5.9%]
④就業者数	(2009年第4四半期)	79万8,200人	[" 4.3%]
⑤失業者数	(2009年第4四半期)	29万3,800人	[" 6.8%]
⑥失業率	(2009年第4四半期)	26.9%	[スペイン全体 18.8%]
⑦物価上昇率	(2009年)	1.0%	[" 2.1%]
⑧貿易	(2009年)	輸入 36億 7,443万ユーロ	
		輸出 15億 4,272万ユーロ	
		赤字 21億 3,171万ユーロ	

出所：①②③④⑤⑥⑦INSUTITUTO NACIONAL DE ESTADISTICA(国家統計局)

⑧INSTITUTO ESPAÑOL DE COMERCIO EXTERIOR(スペイン貿易庁)

(3) 経済政策

従来から、カナリアでは海外からの企業誘致・投資促進施策を進めることが大きな政策課題となっており、その代表が2000年1月にEUの承認を得て制度が整ったZEC(ZONA ESPECIAL CANARIA)である。また、ZEC以外にもその他の特別優遇措置があり、これらの概要は(ロ)に記述するとおりである。

(イ)ZEC(カナリア経済特別区域制度)の概要

ZECにおける優遇措置

カナリア自治州7島内にZECを定め、同区域内で活動するZEC企業に対し、法人税が1～5%の間の課税率(通常税率35%、中小企業の場合は30%)となる優遇税制措置が与えられる。また「資産移転税及び公文書税」、「カナリア間接税」などについてもZEC企業に対する優遇税制措置が適用される。

ZEC企業の対象

カナリア諸島内において金融業を除く製造業、商業及びサービス業に従事するすべての企業が対象となり、ZEC企業として登録ができる。

2010年に認可されたZEC企業の数104社(既に他形態で企業活動を行っていた企業のZEC企業への移行も含む。)となっており、2008年に並んでZEC設置(1994年)以来最高の数となった。

2010年末時点でのZEC登録企業数は374社、被雇用者数は5,292人(2010年中の雇用創出数は1,703人)で、2010年登録のZEC企業68%が外資及び地元企業との合併企業となっている。

また、投資額は2009年に過去最高額3億3,802万ユーロであったが、経済危機の影響で2010年には2億9,144万ユーロに減少した。

企業の活動分野は、以前はサービス業、通信業、流通業が中心だったがその内容も多様化を見せており、再生可能エネルギー、放送、航空業界等の分野に従事する企業もZEC枠内での活動を開始している。

ZECの有効期間

ZECの有効期間は、EU委員会とカナリア自治州政府との間で2019年までの有効期間延長が決定した。

ZEC企業の設立区域(2009年現在)

特定条件のもとにカナリア自治州全域に設置されており、グランカナリア島内及びテネリフェ島内にそれぞれ5区域、ラパルマ島内に2区域、ラゴメラ島、フェルテベントウーラ島、エリエロ島、ランサローテ島内にそれぞれ1区域が指定されている。なお、設置区域の数は今後も増えていく傾向にあるものの、設置用地面積がまだまだ不足している。

特に製造業の企業誘致を進めるためには用地拡張が必要不可欠であり、カナリア自治州政府は中央政府を通じ、ZEC地域拡大の働きかけを行っている。

ZECに対する期待

これまでEUとの交渉と並行して、日本をはじめ、諸外国の企業に対して宣伝活動が繰り広げられている。日本企業に対しても、地理的に不便な一面があるものの期待が寄せられている。

(ロ) グランカナリア非課税地区(LA ZONA FRANCA DE GRAN CANARIA)の概要

ZECとは別の制度で、当該地区内での「非EU」に対する企業活動について原則非課税とするもの。1992年のEU完全加盟時から与えられた特別優遇措置である。非EUを対象とした活動であるためEUの承認を必要とせず、スペインでは国内的にラスパルマス港湾内地区における保管倉庫業、加工業、流通業を対象に1998年に経済・財政省の許可がなされた。

また、グランカナリア空港とアリナガ港に近いアリナガ工業地区内に約2万5千平方メートルの非課税地区が開設され企業進出が進んでいる。

スペイン国内には、既に同様の地区がカディス、バルセロナ及びビゴに開設されているが、グランカナリア島については、アフリカに近接しているという地理的特徴から他地域よりも高い注目を集めている。

(ハ) カナリア自治州におけるその他の特別優遇措置

1994年7月に改正されたREF法(カナリア経済財政制度法)は、カナリア自治州への投資を促進する観点から、カナリア自治州にあるZEC企業以外の企業などに対しても次の特別優遇措置を定めている。

ZEC企業以外の企業に対する税制優遇措置

- ・ カナリア自治州における会社設立、拡張、設備の近代化、移転等に関する納税義務の免除(公文書税の免除)
- ・ 資産、権利等の財産取得に対する納税義務の免除(資産移転税の免除)
- ・ 投資準備金に対する納税義務の90%までの軽減
- ・ カナリア自治州で生産された物産の輸出により得た利益に対し、その法人税を40%軽減

船舶の登録に関する優遇措置

- ・ 資産移転税の免除
- ・ 登録済船舶の乗組員に対する所得税の15%軽減
- ・ 法人税の35%軽減
- ・ 社会保険の企業負担額の50%割引

(4) 社会資本整備

スペインにおいては、2020 年を目処とした交通インフラ大綱 (PEIT) が纏められ、各地で整備事業が進められているが、カナリア自治州においても道路、鉄道、港湾、空港等の各交通インフラの整備が進められている。

近年カナリア自治州において注目されている事業として、2018 年竣工を目処に進められているラスパルマス港拡張事業、2016 年末の開業を目指しているグランカナリア島及びテネリフェ島の鉄道敷設事業及び 2010 年にフェルテベントウーラ島空港の拡張・近代化工事が完了したカナリア空港インフラ整備事業などがある。

また、カナリア自治州においてはその地理的特性を生かし、自然 (再生) エネルギーを利用した事業が進められており、豊富な太陽光や風力を利用した発電施設は既に数多く運用されている。近年では、海水淡水化プラントを含む揚水発電所新設事業が発表されたほか、海洋エネルギーである波力を利用した波力発電実験プラントも計画されている。

4. 産業

(1) 概況

2009年のカナリア自治州における産業別就業人口に占める割合は、第三次産業が80%強と、依然として観光を中心としたサービス業がカナリア経済を支えている。

カナリア自治州産業別就業人口(％)(2009年暫定)

①サービス業	83.0%
②建設業	9.6%
③製造業	4.6%
④農業・漁業	2.0%
⑤エネルギー産業	0.8%

出所:INSUTITUTO NACIONAL DE ESTADISTICA(国家統計局)

(2) 農業

カナリア諸島の主要農産物は、バナナ、トマト、キュウリ、ピーマンなどで、バナナは殆どスペイン本土に、その他は当地の温暖な気候を利用して1年中栽培されていることから、冬の時期にEU諸国へ輸出されているが、近年ではモロッコ(トマト)や中南米諸国(バナナ)との競争が激化している。また、トロピカルフルーツ、花木等の栽培も進められている。農業部門は、カナリア諸島域内総生産においても就業人口においても数パーセントを占めるのみであり、また、ラパルマ島、エルイエロ島等他に有力な産業がない島ではバナナ栽培が唯一の産業となっている特殊事情もあるため、政治的、経済的支援を受けながら存続している。

(3) 漁業・水産

漁業はラスパルマス県が中心で、漁船のほとんどはラスパルマス港を中心としたラスパルマス県の港を基地としている。これまでは、EU-モロッコ漁業協定に基づき全体で約400隻のスペイン船(カナリア州の他アンダルシア州、ガリシア州の所属船も含まれる。)がモロッコ水域で操業を行っていたが、2001年のEU-モロッコ漁業協定交渉の決裂により同水域で操業できなくなり、漁業事業者は大幅な漁業編成を余儀なくされた。現在もこれらの漁業従事者に対してEU、スペイン政府等からの財政支援が行われている。

(4) 港湾

カナリア諸島は大西洋航路の要所(ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ大陸の中間地点)にあることから、グランカナリア島にあるラスパルマス港、テネリフェ島にあるサンタクルス・デ・テネリフェ港を中心に、古くから船舶の補給・修理基地として栄え、かつては自由貿易港としての性格と共にカナリア経済の発展の礎となった。

(ラスパルマス港)

ラスパルマス港の歴史は1492年、コロンブスが新大陸発見の航海へ出発する前にラピンタ号及びラニンニャ号の修繕・補給を現在の港湾施設のある湾内で行った事に遡る。

1883年に近代的な港湾としての設備の着工を始め、今年で開港128年を迎えるラスパルマス港は、カナリア諸島の経済発展を常に支えてきた。

現在も20年に渡る港湾拡張事業計画(1998年から2018年)が順調に進んでおり、近代港として更なる躍進を遂げている。ラスパルマス港の2008年の収入額は15億7,000万ユーロで、これはカナリア自治州GDPの約3%に相当しており、自治州内就業者の1.15%にあたる約9,500人の雇用を創出しているといわれている。

しかしながら、世界的経済危機の影響で、スペイン国内で消費活動と建設業界の冷え込みが続く中、ラスパルマス港湾局でも貨物取扱量が2008年比18.16%減少、コンテナ取扱量等も軒並み減少した。一方で、入港隻数を見ると減少率は僅か0.49%であり、引き続き1万隻近い船舶が利用している状況にある。スペイン国内の各港(2009年ベース)と比較すると、経由貨物取扱量全国一(11万7,532トン)、経由コンテナ取扱量はバレンシア港に次いで第2位(693万5,502トン、2008年第4位)、燃料・水等を供給する補給船取扱いでもアルヘシラス港に次いで第2位(218万2,173トン)となっている。

また、2003年の旅客船(クルーズ船)専用埠頭拡張工事完了に伴い、クィーン・エリザベス2世号の様な大型クルーズ船の入港が可能になった事もあり、2009年のクルーズ船入港隻数は2008年の151隻から393隻(260%)、乗客数も44万人から61万人(139%)に増加した。

現在は、以前のような自由貿易港ではないが、中部大西洋随一の優れた港湾施設により、ハブ港として多様な発展を続けており、2009年には国際赤十字・赤新月社連盟(本部:ジュネーブ)が、2010年には国連世界食糧計画(WFP)がそれぞれ西アフリカへの人道的物資援助拠点として援助基地を設置し活動を開始し、その新たなる活動が注目されている。

ラスパルマス入港主要外国籍船舶数(2008年)			
商 船		漁 船	
国 名	隻 数	国 名	隻 数
パナマ	1,299	日本	153
マルタ	384	パナマ	51
イギリス	366	ポルトガル	38
リベリア	320	イギリス	28
バハマ	274	中国	28
日本	3	韓国	26

出所:AUTORIDAD PORTUARIA DE LAS PALMAS(ラスパルマス港湾局)

(5) 観光

(イ) 概要

カナリア諸島は一年中気候が温暖なことから、1960年代からドイツ、イギリス、北欧諸国を主としてヨーロッパ各国からの避暑・避寒の為、観光客が1年中訪れるようになり、観光地として発展した。

カナリア経済において観光業は主要産業となっており、2009年においてはカナリア自治州GDPの27.4%、就業者数では全体の30.2%を占めている。

外国人観光客は、ヨーロッパ各国の地方都市からチャーター便を利用して数時間で到着できるという便利さや、カナリア自治州政府の積極的な観光客誘致活動を背景に、1997年以降順調に増加し、2001年には1千万人を超えたものの、それ以降は900万人程度で推移している。

2009年は世界的経済危機の影響により一時的に798万人まで外国人観光客が減少したものの、2010年は格安航空会社を利用した観光客の増加等により、アイスランド火山噴火の影響を受けつつも859万人まで回復しており、今後の景気回復に伴う観光客の増加が期待されている。

これらの客は、近年建設や整備が進んだ大型リゾートホテルを利用し、付帯施設(プール、タラソテラピー、ゴルフ場、カジノ等)で一日中楽しむ傾向にあるが、サーフィンやスキューバダイビングと言ったマリンスポーツや登山等のアウトドアスポーツも大変盛んである。

近年の特徴として、旅客船(クルーズ船)を利用しカナリア諸島を訪れる観光客が増加している。

外国人観光客数の推移		
暦年	観客数	伸び率
2006	953万 39人	2.7%
2007	932万 8,546人	- 2.2%
2008	921万 6,585人	- 1.2%
2009	798万 2,256人	-13.4%
2010	859万 81人	7.6%

出所：GOBIERNO DE CANARIAS（カナリア自治州政府）

(ロ)カナリア諸島の特徴

東西に並ぶカナリア諸島を構成する7つの島は、アフリカ大陸の気候の影響を受ける度合いが異なる(アフリカに近い程乾燥している。)ため、それぞれ異なった様相を見せ、観光客誘致の目玉も異なっている。アフリカ大陸から約115kmと、距離の近いラスパルマス県の3島(ランサローテ島、フェルテVENTOURA島、グランカナリア島)では、溶岩、砂漠、美しい海岸などが特徴となっているが、これとは対照的に、アフリカから離れたサンタクルス・デ・ネリフェ島の4島(テネリフェ島、ラパルマ島、ラゴメラ島、エルイエロ島)では、深く美しい緑が特徴となっている。

カナリア諸島には3つの世界遺産があり、テネリフェ島にあるスペイン最高峰テイデ山(3,718m)の国立公園が2007年、サンクリストバル・デ・ララゲーナ市の旧市街が1994年、ラゴメラ島のガラホナイ国立公園が1986年にそれぞれ世界遺産に指定されている。

また、北半球有数の天文観測施設が集まるラパルマ島の山頂には、2009年8月に光学赤外線観測では世界最大口径(直径10.4m)となる天体望遠鏡が設置されているカナリア大天文台がある。

(ハ)国別観光客数

国別に観光客数を見ると、イギリス及びドイツからの観光客が圧倒的に多く、2010年ではそれぞれ319万人、232万人に達し、全体の6割を占めている。

観光客主要国籍(2010年、除スペイン)

- ① イギリス(319万人) ② ドイツ(232万人) ③ ノルウェー(36万人)
④ アイルランド(35万人) ⑤ スウェーデン(34万人)

出所：GOBIERNO DE CANARIAS(カナリア自治州政府)

(二)主要イベント

カナリア諸島で開催される代表的観光イベントとしては、毎年2～3月にかけて約3週間にわたり開催されるカーニバルがその筆頭に挙げられる。特に、テネリフェ島のカーニバルは1945年に起源を有し有名である。

最近では1984年から開催されている欧州唯一の冬季音楽祭である「カナリア国際音楽祭」(於:ラスパルマス・デ・グランカナリア市、サンタクルス・デ・テネリフェ市、毎年1～2月頃)、2000年から始まった「ラスパルマス・デ・グランカナリア市国際映画祭」(毎年春)などの文化事業にも力を入れている。

また、スポーツの分野では、フェルテVENTOURA島で開催される「ウィンドサーフィン世界選手権」(毎春)や、グランカナリア島からカリブ海セントルシア島に向け大西洋を横断するヨットレース「大西洋横断ヨットレース(ARC)」(毎年11月頃)が開催されている。

(6)貿易

カナリア諸島の主要輸出品は、石油製品及び農産物等で、輸入品は、鉱油、機械類、自動車等となっている。

カナリア諸島は、商品を諸島外から輸入し、観光で稼ぐという産業構造のため、貿易収支は慢性的に赤字(貿易外収支(主に観光)は黒字)となっている。

カナリア貿易高(単位:ユーロ)			
暦年	輸入	輸出	貿易収支
2005	43億 450万	8億 3,368万	-34億 7,082万
2006	50億 8,129万	10億 3,798万	-38億 2,812万
2007	53億 1,688万	16億 6,440万	-36億 5,248万
2008	55億 665万	22億 7,580万	-32億 3,085万
2009	36億 7,443万	15億 4,272万	-21億 3,171万

主な貿易相手国(2009年金額ベース)

輸入:①赤道ギニア ②オランダ ③ドイツ ④フランス ⑤中国 (⑮日本)

輸出:①オランダ ②ドイツ ③イギリス ④フランス ⑤ロシア (⑳日本)

出所:DIRECCION GENERAL DE ADUANAS(スペイン税関当局)

5. 社会・文化

(1) 社会情勢

スペイン本土と比べ、カナリア諸島は歴史の経緯からみても社会・文化面において独自性があり、一方では人々の素朴さも特徴と言われている。また、テロ活動は近年起きておらず、治安も一般に良好である。しかしながら、カナリア諸島はアフリカ大陸まで約115キロと近い位置にあることから、北西アフリカ諸国からの小型船による不法入国者が問題となっており、到着者数は減少したものの、近年では、西サハラからの難民と称する者が来島しており、スペイン政府も注意を払っている。

また、国際的には20世紀の初め、中南米に多くのカナリア人が移住したことから、特にヴェネズエラやキューバとの交流が盛んである。

(2) 教育・文化

大学は、グランカナリア島(ラスパルマス・デ・グランカナリア大学)及びサンタクルス・デ・テネリフェ島(ララゲーナ大学)に一校ずつ設置されている。

カナリア諸島は、スペイン本土の文化に加え、地理的にはむしろアフリカに近いこと、歴史的には原住民グアンチェの固有文化を受け継いでいることなど多くの文化を伝承してきており、それらが手芸、陶器、音楽に表現されている。

また、カナリア諸島からは、ペレス・ガルドス(作家)、セサル・マンリケ(芸術家)、アルフレド・クラウス(声楽家)、ハビエル・バルデム(俳優)等の著名な人物も輩出している。

6. 日本との関係

(1) 水産

1959年に我が国のトロール船がサハラ沖に鯛の漁場を発見、その後、たこ、いか類の漁場が開発されて以来、当地を基地として我が国トロール船団がサハラ沖にて操業しており、当時からラスパルマスを基地として大西洋で操業していたまぐろ漁船団とも併せて、最盛期の1970年代前半には延べ500隻に上る日本籍船舶が当地に入港していた。これらに乗船する日本人乗組員数も年間1万人を超えており、当地で海外基地漁業に従事する日本人船員の福利厚生のため、海外の保養施設としては初めての設置となる日本船員保険福祉会館(当地名:CASA DEL JAPON)が昭和42年4月に開設された(昭和60年12月閉鎖)。

その後、各国の経済水域拡大の機運が高まると共にトロール船団は徐々に減少し、1982年を最後に我が国トロール船はほぼ全面撤退した。以後、主にまぐろ漁船団が当地を基地として利用しており、たこ、いか等については、採る漁業から買う漁業に転換、当地駐在の我が国水産会社、商社はスペイン、モロッコ、モーリタニア等の漁船からこれらを買付けしている。

(2) 漁業基地

200海里問題等によりトロール船が撤退した後、まぐろ漁船がラスパルマス港を利用する主体となっている。特に、乗組員に休暇を与える休漁期間中には船員を当地から空路帰国させ、その間船舶を当地に係留し専門業者が整備・修繕を行うという様に、海外拠点・基地化が進んできている。

同時に、この日本漁船が日本に戻らないという運航パターンに対応して、ラスパルマス港における定期的な船舶検査及び管海事務等が重要となっている。当地には国土交通省の船舶検査官が常駐しており、一年を通じ日本船が船舶検査を受検できる大西洋における唯一の地となっていることも、ラスパルマス港が海外漁業基地としての機能する所以である。

2008年は、156隻(商船3隻、漁船153隻)の日本船がラスパルマス港に寄港している。これに対し、カナリア諸島の2大港湾の一つであるサンタクルス・デ・テネリフェ港は、従来より日本船との係わりは少ない。

(3) 貿易

カナリア諸島からは主に魚介類(たこ、いか等)が日本に輸出されており、EU-モロッコ漁業協定の影響を受けたものの、2009年においては対日輸出の89%を占めている。日本からの輸入品の中心は、自動車、電気機器、医療機器等である。

対日貿易額(単位:ユーロ)			
暦年	輸 入	輸 出	貿易収支
2005	1億1,620万	1,720万	- 9,900万
2006	1億2,002万	2,309万	- 9,693万
2007	1億2,270万	823万	-1億1,447万
2008	6,555万	858万	- 5,697万
2009	2,607万	768万	- 1,839万

出典: DIRECCION GENERAL DE ADUANAS (スペイン税関当局)

(4) 文化交流

在外公館の主要行事としては、各種ワークショップ、日本文化紹介、展示会並びに日本映画週間などが年間恒例事業として実施されており、カナリア地域への日本文化啓発に継続的な形での努力が行われている。こうした活動を通じ、当地の人々の日本に対する知識や関心が一層深まる事が期待される。

なお、最近、アニメ、テレビゲーム等の日本のポップカルチャーに若者達の関心高く、これらを通じて日本語学習に意欲を持つ人々の数も増えている。

(5)在留邦人

在留邦人数は、近年、200人弱台で推移している。殆どがグランカナリア島ラスパルマス・デ・グランカナリア市及びその近郊に居住している。同島以外では、テネリフェ島 40人弱、ランサローテ島、フェルテベントウーラ島及びラパルマ島に各数人となっている。

カナリア在留邦人数(2009年10月1日現在)	
島名	人数
グランカナリア島	124人
テネリフェ島	38人
ランサローテ島	2人
ラパルマ島	3人
フェルテベントウーラ島	2人
合計	169人

長期滞在者の中では、水産会社・商社水産部門の駐在員と船舶の補給・整備に係わる駐在員に大別されるが、そのうち前者の駐在員は当地のみならず当地を拠点として、主に西アフリカで漁獲物の買い付けを行っている。

日本人学校は、1973年に開校され27年間にわたり子女教育並びに在留邦人の活動の拠点として存在してきたが、2001年に休校となった。